

平成30年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	21	学校名	静岡県立沼津工業高等学校 (全日制)	校長名	成田 優
------	----	-----	-----------------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心安全な学校づくりを推進する。	交通安全に気を付けていると答える生徒 100%	95%であった。	B	気を付けているという生徒は多いが、昨年度は14件であった交通事故が、本年度は26件と大幅増加した。対策が必要。
		地域防災訓練への参加率の向上	26.7%であり、昨年より若干向上した。	C	参加率は昨年よりわずかに向上した。自己都合で地域防災訓練に参加しない生徒への啓発が今後の課題である。
		清掃活動に積極的に取り組んでいると答える生徒 90%以上	94.7%であった。	A	3学年とも90%以上の回答であった。（1年生95.7%、2年生96.2%、3年生92.2%）工業科では実習後の清掃・片づけ・整理整頓に取り組んでいるが、徹底できないこともあった。
イ	規範意識や人権意識等を醸成する。	ピアサポート研修の実施	1回実施した。	B	1年生ピアサポート研修は特定のクラスのみ実施のため、来年度以降は全クラスで行えるよう実施方法を検討したい。
		信頼できる先生がいると答える生徒 70%以上	69.1%であった。		教員に対する生徒からの信頼度向上に向け、努めて行く。校内研修や各種資料も活用したい。
		個別の指導計画の作成	作成できなかった。		中学校における個別の指導計画が提出された生徒を中心に、生徒・保護者・担任・教育相談部で面談を行い、作成を推進する。
		主権者教育副教材を活用した授業、講話の実施	3年生に「租税教室」を、2年生には選挙管理委員会による「主権者教育」を実施した。	A	生徒に将来の納税者や主権者としての意識を持たせる契機としては有意義であった。
	外部講師の活用	外部講師を招請し、いのちのメッセージ展や交通講話を実施した。		交通事故が本年度増加しており、交通講話及び登下校指導以外の第3の指導が急務といえる。	

様式第3号

ウ	<p>基本的な生活習慣の確立、並びにたくましく生きるための健康や体力の増進を図る。</p>	欠席者、遅刻者数の削減	欠席 10.3 人/日、遅刻 4.7 人/日で、昨年度より増加した。	B	学校全体で遅刻者減少に向けた指導を継続する。家庭と連携しながら指導をして行く必要がある。
		服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答える生徒 90%以上	90%であった。		一部の生徒の服装・頭髪など身だしなみの乱れが、他の生徒にも徐々に拡大しているため、方策を考える必要がある。
		新体力テスト優良校	男女とも優良校(男子 72 位・女子 53 位)	B	目標は達成されたものの、年々生徒の体力が低下しているため、継続して鍛えて行きたい。
		朝食摂取率の向上	95.5%の摂取率となり向上した。		朝食摂取率は事前調査を実施したので向上した。100%を目指して行く。
エ	<p>基礎的・基本的な学習内容の確実な定着及び学力の充実を通して、生徒個々の進路希望を実現する。</p>	先生の話をよく聞いていると答える生徒 100%	90.3%であった。(昨年度は 92.4%)	B	成果目標には達していないが、学校全体の 9 割の生徒が先生の話をよく聞いていると答えている。今後は 100%を目指したい。
		I C T を活用して授業を実施する教職員 50%以上	使う職員は使用頻度が高いが、活用しない職員も多い。	C	活用向上のため、本年度、I C T 支援員による全教職員対象の研修会を実施した。今後も、I C T 活用の具体的事例や研修会の紹介を行う。台数が限られているので使いたい時に使えない状況がややあることも次年度以降の課題である。
		研究授業に参加する教職員 80%以上	半分程度であった。		科横断的に実施されるべきだが、現実にはうまく機能していない。改善の必要がある。
		授業が分かる と答える生徒 80%以上	80.6%であった。(昨年度は 76.6%)		昨年度より向上している。今後も授業改善を行い「分かる授業」を行っていく。
		インターネット環境を利用した自学自習システムの導入と検証	家庭でのスタディサプリ受講者 41 人(1 年生 12 人、2 年生 11 人、3 年生 18 人)。上記のうち、放課後の受講者 4 人。	B	受講時間数と出席率の向上のため学年、教科の連携の方法を考える。効果の検証も必要である。

様式第3号

		<p>家庭学習時間の増加</p>	<p>中間テスト前10日間の平均は、1時間43分で、昨年度より減少した。</p>		<p>生徒に対して定期的な課題の提示を行う。家庭学習の大切さも継続して伝えて行く。</p>
		<p>教科、学年部等と連携した進学、就職指導体制の再構築</p>	<p>進路指導部と3年部で連携し、円滑に進路指導ができた。学年部との連携により、各種模擬試験を実施した。</p>	A	<p>進路決定に向けて、一般常識模擬試験、SPI模擬試験、進学模擬試験を実施した。一方、進路決定後も学力向上を目指すためには、新たな目標を持たせることが必要である。</p>
		<p>社会人講話等の満足度80%以上</p>	<p>平均値は85%であった。</p>		<p>外部講師を招いて、進路ガイダンスや労務講話、職業啓発講話を実施した。外部団体との継続的な連携が必要である。</p>
		<p>高専、国公立大学への進学者10人以上</p>	<p>高専1人、国公立大学7人の合格者。</p>	B	<p>国公立大学の訪問等を通して受験情報の収集に努め、合格者数の向上を目指す。</p>
	<p>時代にふさわしい産業教育を推進する。</p>	<p>技能検定の受検者数、合格者数の増加</p>	<p>建築科2級2人、3級11人、電子科3級1人受検。</p>	B	<p>大工技能士の受検者数は毎年向上している。ものづくり競技大会の指導の一環として技能検定の旋盤職種に取り組んできたが、その他の職種や国家試験にも対応できるような事も考えていきたい。</p>
オ		<p>国家試験等の受検者数、合格者数の増加</p>	<p>受験者数、合格者数とも昨年並みであった。</p>		<p>物質工学科3年生が1人、毒物劇物取扱者試験に合格した。電子科では、基本情報技術者試験に2人、ITパスポート試験に3年生2人が合格した。電子科3年生は、工事担任者DD3種に38人が合格した。合格率は95%である。情報セキュリティマネジメント試験には9人が合格した。</p>

		<p>知的財産権に関する講師招へい講座、授業の実施(2回以上)</p> <p>パテントコンテストへの応募点数の増加</p>	<p>弁理士の招へい3回。</p> <p>応募12件、うち優秀賞1件。(昨年13件)</p>	<p>A</p>	<p>1年生では知的財産に関する意識が高まり、日常生活における課題を発見する生徒が増えた。</p> <p>パテントコンテストでは3年電子科生徒が、産学官金連携IoTを活用したアクアポニックス(水産養殖・水耕栽培)の研究を行い、優秀賞に選ばれた。</p>
		<p>外部に向けた生徒研究発表会、作品展示会等の実施(各科3回以上)</p>	<p>中学生への出前授業、三島だしや染校、清水町産業祭、かなみ商工まつり、科学と技術のひろば、実学チャレンジフェスタに参加した。また、信用金庫ギャラリーへの作品展示や、静岡県工業教育研究会生徒研究発表会に参加した。</p>	<p>B</p>	<p>多くのイベントに参加することができたが、計画的な取組みや準備、イベントごとの体験項目の検討が必要である。出前授業を含め準備に生徒の力を借りることが多いため、過度の負担にならないような配慮も必要。</p>
		<p>ホームページの更新週1回以上</p>	<p>部活動(主に運動部)の結果報告などは比較的頻繁に更新されたが、全体的な更新は週1回できなかった。</p>		<p>本年度の活動を更に推し進めたい。ホームページは誰でも見ることができる情報発信のツールであり、もっと活用すべきである。沼工のホームページを閲覧する、という意識より、興味あるページを閲覧したら沼工だった、というイメージが良いと思う。</p>
<p>力</p>	<p>活気に溢れ魅力ある学校教育を推進する。</p>	<p>県大会以上への出場や校外での研究発表、作品応募数の増加</p>	<p>勝ち抜きの有無はあるが、多くの部活動が県大会出場を果たした。ボート部は東海大会出場、ロボット制御部は全国大会出場を果たした。静岡県ものづ</p>	<p>B</p>	<p>部活動加入率も向上しており、校外での発表、作品応募等を行った生徒は増加したといえる。この成果をPRしていくことも重要である。部活動においては、年度途中で活動から離れ、所属はしているものの、実際には活動していない生徒の指導が困難になっている。静岡県高校生省燃費競技大会、</p>

		<p>活動時間の短縮（下校時刻）と休養日の設定</p>	<p>くり競技大会には、5 種目、12 人が出場した。 全国高等学校土木設計競技において、グッドアイデア賞を受賞した。</p> <p>来年度からの本校の部活動ガイドラインを作成し、活動時間および休養日の設定についてルールを定めた。</p>	<p>静岡県高校生ロボット競技大会に出場した。 建築科では、製図コンクールや、建設論文等に、学年ごと全員が取り組み応募した。 作品応募については指導教員や生徒の負担も考えながら、継続して取り組んでいきたい。</p> <p>来年度からの部活動ガイドラインの内容を周知し、ガイドラインに沿った活動を行うことが必要である。</p>
		<p>学校生活に満足していると答える生徒 90%以上</p>	<p>82.3%であった。(昨年度は 79.6%)</p>	<p>B 成果目標には達しなかったが昨年度よりも向上している。</p>
		<p>学校が楽しいと答える生徒 90%以上</p>	<p>86.3%であった。(昨年度は 84.2%)</p>	<p>成果目標には達しなかったが昨年度よりも向上している。</p>
		<p>学校行事に意欲的に取り組んでいると答える生徒 90%以上</p>	<p>84.0%であった。(昨年度は 81.6%)</p>	<p>全体の 8 割以上の生徒が意欲的に取り組んでいる。年々向上している。 本年度より新たに 1 年生の学校行事として保育体験実習を行った。手作りおもちゃで一緒に遊んだり、昼食の準備のお手伝いをしたり、生徒は安全に配慮しながら意欲的に園児と触れ合うことができた。また学校内では見られない生徒の一面を見ることができた。</p>
		<p>自然科学やものづくりに関心があると答える生徒 90%以上</p>	<p>多くの生徒は実習等でのものづくりに積極的に取り組んでいる。</p>	<p>課題研究ではすべての生徒がものづくりに関するテーマを設定し、1 年間取り組んだ。研究内容についてはもう少し充実を図りたいテーマがあった。(機械) 課題研究や実習の中でのものづくりの楽しさを実感させることができた。(建築) 自然に対して自然な考えができ</p>

様式第3号

					<p>る様、基礎的問題を精選し、小テスト定期テストにより定着させ、自然科学に関する発問を意識し、おおむねの生徒が自然な考えにより答えられるようになった。(理科)。</p>
キ	<p>公費の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を改善・充実する。</p>	<p>不適切な会計処理ゼロ</p>	<p>例月出納検査の指摘等ゼロ。</p>	A	<p>職員相互のチェック体制により不適切会計を防止した。研修会参加等による知識の習得に努めた。</p>
		<p>要改善箇所の低減</p>	<p>職員安全衛生委員会等と連携し、改善を行った。 机の天板や、下駄箱の扉の修理など必要な対応をとった。</p>	B	<p>職員の情報提供や意見、担当の校内巡視により要改善・修繕箇所を把握し、実効的な修繕や備品購入等により予算を有効活用し、効果的な対応が出来た。他部局の不要備品を活用した教育環境の整備を行った。校舎等が古く、近年の教育的ニーズに合った施設設備とするには課題が大きい。学習における環境整備(机の天板や椅子の交換、生徒用ロッカーの交換や下駄箱の扉の修理など)を行うことができた。</p>
		<p>予算執行率(負担行為) 9月末 65%以上 12月末 85%以上</p>	<p>執行率 9月末 32% 12月末 74%</p>	B	<p>9月末時点での執行率は低いものの、12月末時点では上半期以上の執行進捗となった。執行率は目安であり、適切な時期に執行することが肝要である。より効果的な予算執行となるよう努めた。必要な時に適切に予算執行できるよう、職員間の情報共有をより積極的に図っていく。</p>